

# 翔

百万石蝶談会

No. 139

August 1999



## ウスイロコノマチョウの集まる場所

松 井 正 人

ウスイロコノマチョウは迷蝶として夏から秋にかけて石川県にやって来るが、1998年は5頭が採集あるいは目撃されている。

1998年10月4日	石川県羽咋郡押水町北川尻	1♂	松井正人
1998年10月4日	石川県羽咋郡富来町鹿頭	1♀	松井正人
1998年10月11日	石川県加賀市西島	1♂	松井正人
1998年10月27日	石川県河北郡津幡町仮生	1頭目撃	井村正行
1998年10月29日	石川県金沢市大場	1♂	松井正人

ウスイロコノマチョウは、水田地帯にポツンと残された神社林で良く見られる。このような場所は、広い範囲の中で日陰を提供する狭い場所であり、夜間は唯一あかりが灯る場所でもある。また、神社の周囲にはカキやイチジクが植えられていることがあり、水田地帯の神社林はウスイロコノマチョウの集まる格好の場所だと思われる。

以下の表は、県内のウスイロコノマチョウの記録を記録地別にまとめたものである。

年 度	水 田 地 帯 の 神 社 林			そ の 他	合 計
	全 数	鹿頭(内数)	西島(内数)		
1990年	1			1	2
1991年	8	(1)		7	15
1992年					0
1993年	1	(1)		1	2
1994年					0
1995年	1		(1)	1	2
1996年					0
1997年				1	1
1998年	4	(1)	(1)	1	5
合 計	15	(3)	(2)	12	27

90年代に入って27頭のウスイロコノマチョウが記録されているが、半数以上は、水田地帯の神社林で記録されている。また、富来町鹿頭や加賀市西島の神社では、同じ場所で複数年に渡って記録され、条件の良い神社林にはかなりの確率で集まって来ることが考えられる。

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

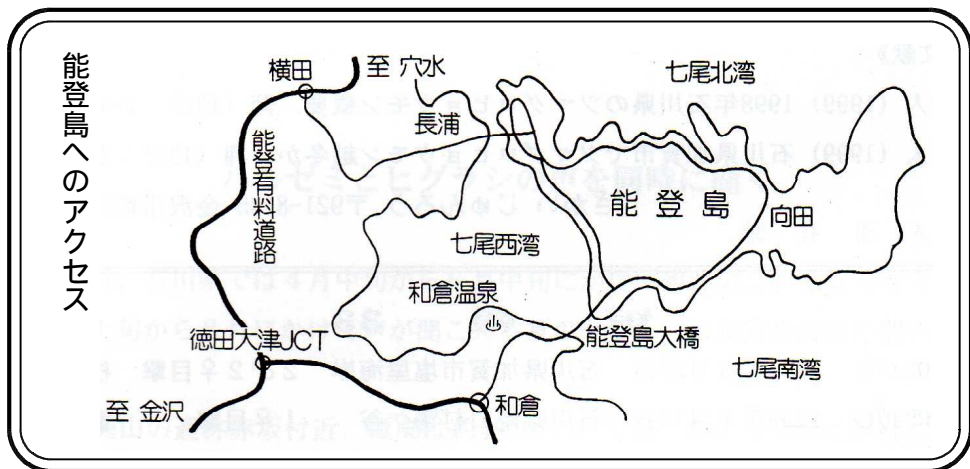
## 能登島で見かけた蝶

久 慈 一 英

門前町のクロコムラサキは、発生期をはずしたので能登島へ行ってみた。地史的には能登半島の一部と考えられるが、周囲を海に囲まれた正真正銘の島である。能登島へ渡る橋が2本になり、無料になったので行きやすくなった。今まで蝶に関しては能登半島同様に、クロコムラサキやオオヒカゲが記録されているぐらいで目立った報告はない。林道で雑木林の奥へ入ってみた。栗の花が咲いており、叩いてみるが、ゼフィルスはでない。ミドリヒョウモンやルリシジミ、コムスジばかりである。ミドリヒョウモンも特に変わった変異がない。草地には、モンキチョウがおり、モンキアゲハも見かけた。

林道沿いのススキにホソバセセリがいた。暖地性のセセリチョウで、隣の富山県では少ないという。能登島を含めて能登半島は、海流の影響で暖かいためであろうか、各地に記録がある。目立たないチョウであるし、人気もあまりない。太平洋側では東北南部にも分布しているが、日本海側では能登半島が北限になりそうである。能登島で人知れずコノマチョウが発生などということも十分に考えられる。

1998年7月12日	石川県鹿島郡能登島町向田	久慈一英	
モンキアゲハ	目撃	コムスジ	目撃
モンキチョウ	目撃	ミドリヒョウモン	1♂採集
ルリシジミ	目撃	ホソバセセリ	1♂採集
ヤマトシジミ	目撃		



## 《 参考文献 》

- 石川むしの会・百万石蝶談会編 (1998) 石川県の蝶。  
 富山市科学文化センター編 (1998) 富山県の蝶 (I).  
 富山市科学文化センター編 (1999) 富山県の蝶 (II).

《くじ いちえい 〒920-1161 金沢市鈴見台3丁目1-3》

## 金沢における越冬ツマグロヒョウモンの目撃・採集例

嵯峨井淳郎

石川県金沢市内において、昨年、笹川忠志氏により確認されたツマグロヒョウモン発生地（額谷・大額地内）をはじめ、石川郡鶴来町NTT倉ヶ岳無線中継所周辺、小松市仏大寺、石川郡河内村板尾、羽咋郡押水町宝達山等々で、5月連休明けより比較的こまめにツマグロヒョウモン調査を行った。

天候にも恵まれ、土・日曜はほとんど晴。好条件の中、確実に「石川県内で越冬ツマグロヒョウモンの発生はありうる」との信念の元、松井正人氏より『加賀市塩屋海岸にてツマグロヒョウモン雄雌とも確認』のE-Mail第1報が入り、益々意気高揚。金沢市周辺での記録は俺が出そうとの心意気で、自宅が1998年の発生地に非常に近いという地理的好条件も手伝って、暇さえあればツマグロ、ツマグロと追いかけて続けた。

結果、松井塩屋情報に遅れること10日、雄雌とも確認することができた。確認日、確認地は以下のとおりである。

1999年5月18日	金沢市額谷	2♀目撃	嵯峨井淳郎
1999年5月22日	金沢市大額	1♀目撃	嵯峨井淳郎
1999年5月22日	金沢市額谷	1♂採集 1♀目撃	嵯峨井淳郎

なお、雌については2化に向けての思惑もあり、採集はあえて控えた。採集した1♂は前翅長27mm、昨秋に同地にて採集した個体、幼虫採集飼育個体よりかなり小型であった。あくまで想定であるが、幼虫越冬したツマグロヒョウモンだと確信してやまない。

### 《参考文献》

松井正人（1999）1998年石川県のツマグロヒョウモン概要. 翔（136）：1-6.

松井正人（1999）石川県加賀市でツマグロヒョウモン越冬か. 翔（138）：2-3.

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

### 短 報 33

ツマグロヒョウモン	1999年6月26日	石川県加賀市塩屋海岸	2♂2♀目撃	松井正人
ツマグロヒョウモン	1999年7月14日	石川県尾口村鶺鴒ヶ谷	1♀目撃	富沢 章
ツマグロヒョウモン	1999年7月15日	石川県松任市山島台	1♀目撃	牧原悟郎
ツマグロヒョウモン	1999年7月16日	石川県寺井町末寺	1♀目撃	牧原悟郎
ツマグロヒョウモン	1999年7月16日	石川県白峰村大杉谷	1♀	嵯峨井淳郎
ツマグロヒョウモン	1999年7月17日	石川県輪島市高洲山	1♂2♀目撃	日吉芳朗
ツマグロヒョウモン	1999年7月24日	石川県白峰村赤谷川	1♀	嵯峨井淳郎

## 石川県産ミヤマカラスアゲハ、カラスアゲハの第3化の確認例

嵯峨井 淳郎

1998年は、春先より近来にない好天が続き各種の昆虫にとってはこの上ない条件下のもと、通年に比較して1～2回多い発生を繰り返した感がある。

筆者は、かねてより石川県産ミヤマカラスアゲハ、カラスアゲハの確実な3化確認を目的に行動していた。例年5月の連休前後より、これら2種の発生確認を目標に河内村板尾地区を訪れているが、本年ようやく確実な第3化の発生を確認したので報告する。

ミヤマカラスアゲハの第1化は5月上旬頃、2化は7月上旬頃、3化は9月上旬頃と思われる。カラスアゲハに付いてはそれよりやや早いと思われる。

なお、松井正人氏より情報を寄せられた押水町産のものについても、ここに併記する。データの発表を快諾いただいた松井正人氏に感謝したい。

### ◆カラスアゲハの3化の記録

1998年8月20日	金沢市大手町病院前	3♂目撃確認	嵯峨井 淳郎
1998年9月5日	石川県河内村板尾	1♂採集 2♂確認	嵯峨井 淳郎

### ◆ミヤマカラスアゲハの3化の記録

1998年9月5日	羽咋郡押水町宝達山山頂	2♂目撃確認	松井 正人
1998年9月14日	石川県河内村板尾	3♂採集	嵯峨井 淳郎
1998年9月19日	石川県河内村板尾	3♂目撃確認	嵯峨井 淳郎

《さがい じゅんろう 〒921-8145 金沢市額谷3-18-2》

## ハルゼミとヒグラシの声を同時に聞く

松井 正人

ハルゼミは、石川県では4月中旬から6月中旬にかけて声が聞こえる春のセミ。ヒグラシは、7月上旬から8月にかけて声が聞こえる夏のセミ。この両方を同時に聞いたので報告する。

輪島市高洲山の通称赤坂付近、標高は約400mで、午後2時から3時にかけて、ハルゼミは1回、ヒグラシは3回程鳴いていた。当日は、11時頃までは曇りで、その後は晴れ上がり暑くなった。下界では各地で一斉に、ニイニイゼミが鳴き出した日でもある。

1999年7月7日	石川県輪島市高洲山赤坂	ハルゼミ声	松井正人
1999年7月7日	石川県輪島市高洲山赤坂	ヒグラシ声	松井正人

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

## 晩秋の吉次山蛾類記録

松井正人・富沢 章

標高800mの吉次山は石川県金沢市の南東、湯涌温泉の背後にあり、標高660m付近には採石場があって、ふもとの畠尾からは車道が伸びている。この採石場付近において11月に3回の燈火採集を行い、蛾類37種を得たので報告する。採集は松井が澤田 博、野田延孝の両氏から協力を得て行ない、同定は富沢が行った。

寒い冬空の下、採集に協力いただいた澤田 博、野田延孝の両氏にお礼申し上げる。

## ◆採集日時と天候

- 1回目 1998年11月7日 17時～20時 くもり のち 晴  
 2回目 1998年11月14日 17時～19時半 風が強い  
 3回目 1998年11月29日 16時～19時 積雪あり、月が明るく気温4度

3回の調査で得られた蛾類37種のうち、43%にあたる16種が秋から冬にのみ出現する種であった。

採集例の少ない種として次の2種があげられる。ニセタマナヤガは1970年代に日本に進入した汎世界種であるが、本県では2頭目である。また、ウスズミカレハは晩秋に出現する蛾でこれまでに白峰村六万山から得られているのみである。

種 名	7日	14日	29日
◆ハマキガ科			
ウスグロフユハマキ <i>Kawabeia nigricolor</i> Yasuda & Kawabe			3
◆メイガ科			
オオキノメイガ <i>Botyodes principalis</i> Leech		1	
マエアカスカシノメイガ <i>Palpita nigropunctalis</i> (Bremer)	2		
マメノメイガ <i>Maruca vitrata</i> (Fabricius)	1		
◆カギバガ科			
アカウラカギバ <i>Hypsomadius insignis</i> Butler	1		
◆シャクガ科			
クロテンフユシャク <i>Inurois membranaria</i> (Christoph)			4
シロオビフユシャク <i>Alsophila japonensis</i> (Warren)			13
トビスジヒメナミシャク <i>Orthonama obstipata</i> (Fabricius)	1		

ナカオビアキナミシャク <i>Nothoporia mediolineata</i> (Prout)	9	6	
アキナミシャク <i>Epirrita autumnata autumnata</i> (Bryk)	1		
カバエダシャク <i>Colotois pennaria ussuriensis</i> Bang - Haas			3
ナカジロネグロエダシャク <i>Ramobia mediodivisa</i> Inoue	1		
フタテンソトグロキエダシャク <i>Pseudepione shiraii</i> Inoue	4		
◆カレハガ科			
ウスズミカレハ <i>Poecilocampa tamanukii</i> Matsumura	1		3
◆シャチホコガ科			
クシヒゲシャチホコ <i>Ptilophora nohirae</i> (Matsumura)			4
◆ヤガ科			
タマナヤガ <i>Agrotis ipsilon</i> (Hufnagel)	1		
ニセタマナヤガ <i>Peridroma saucia</i> (Hubner)	1		
コウスチャヤガ <i>Diarsia deparca</i> (Butler)	2	5	
アワヨトウ <i>Mythimna separata</i> (Walker)	1		
アオバハガタヨトウ <i>Antivaleria viridimacula</i> (Graeser)	6	1	
ホシオビキリガ <i>Conistra alpipuncta</i> (Leech)	1	4	
テンスジキリガ <i>Conistra fletcheri</i> Sugi	8	24	4
ケンモンミドリキリガ <i>Daseochaeta viridis</i> (Leech)	3		
キマエキリガ <i>Hemiglaea costalis</i> (Butler)	2		
コケイロホソキリガ <i>Lithophane nagaii</i> Sugi		1	
ホソバハガタヨトウ <i>Meganephria funesta</i> Leech	1	3	3
ヤマノモンキリガ <i>Sugitania clara</i> Sugi			1
キトガリキリガ <i>Telorta edentata</i> (Leech)	24		
カラスヨトウ <i>Amphipyra livida corvina</i> Motschulsky	1		
ハスモンヨトウ <i>Spodoptera litura</i> (Fabricius)	11	2	
フサヤガ <i>Eutelia geyeri</i> (Felder & Rogenhofer)	1		
イチジクキンウワバ <i>Chrysodeixis eriosoma</i> (Doubleday)		1	
フクラスズメ <i>Arcte coerulea</i> (Guenee)	1	2	
ヒメクビグロクチバ <i>Lygephila recta</i> (Bremer)	1		
マエテンアツバ <i>Rhesala imparata</i> Walker	1		
ミツボシアツバ <i>Hypena tristalis</i> Ledere	1		
オオアカマエアツバ <i>Simplicia nippona</i> (Butler)	1		

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

《とみさわ あきら 〒923-0911 小松市大川町3丁目71》

## 訪花性誘引器で採集したコメツキムシ

松井正人

1995年5月から10月にかけて、石川県の4カ所に設置した訪花性誘引器（バケツトラップ）で採集したコメツキムシについて報告する。トラップは一週間に一度見回り、誘引剤にはアカネコール（サンケイ化学）を用いた。

採集したコメツキムシは32種588頭で、中でもクロムナボソコメツキとキバネホソコメツキは多く採集され、この2種は他に採集した種からぬきんでていた。また、今回採集した中に、石川県初記録と思われる種が1種含まれていた。

なお、誘引器の準備では、江崎功二郎、江口元章の両氏に、種の同定では江崎功二郎、高羽正治の2氏、並びに大平仁夫、岸井 尚の両博士にたいへんお世話になった。ここに記してお礼申し上げる。

## ◆誘引器の設置期間と設置条件

設置場所	設置期間	標高	地況	地上高	誘引器の色
石川郡吉野谷村途中谷	1995年5月14日～10月1日	640m	谷底	8m	黄色
石川郡尾口村三又発電所	1995年6月10日～10月1日	700m	中腹	15m	白色
石川郡吉野谷村雄谷入口	1995年6月10日～10月1日	540m	尾根	10m	黄色
河北郡津幡町甲斐崎山	1995年5月13日～7月30日	320m	頂上	10m	黄色

## ◆石川県初記録のコメツキ

高羽正治(1998)によると、石川県からは138種のコメツキムシが記録されているが、次の種は石川県初記録と思われる。

マルクビクシコメツキ *Melanotus fortnumi*

石川郡吉野谷村途中谷 1995年6月4日～6月10日 1頭

## ◆採集したコメツキムシ

和名	学名	途中谷	三又	雄谷	甲斐崎	合計
1 ムヒノサキコメツキ	<i>Agrypnus cordicollis</i>	6	2	0	2	10
2 タシマカネコメツキ	<i>Gambrinus vittatus</i>	1	0	0	0	1
3 ニホンベニコメツキ	<i>Denticollis nipponensis nipponensis</i>	1	0	0	0	1
4 ガロムネダゲダコメツキ	<i>Harminius galloisi</i>	0	0	2	0	2



5	オツヤハダコメツキ	<i>Stenagostus umbratilis</i>	3	1	2	0	6
6	ルリツヤハダコメツキ	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>	1	0	0	0	1
7	タ <sup>ニ</sup> イミヨウヒラタコメツキ	<i>Anostirus daimio</i>	1	0	0	0	1
8	ト <sup>ウ</sup> カ <sup>ニ</sup> ネヒラタコメツキ	<i>Corymbitodes gratus</i>	5	0	0	0	5
9	クロホヒラタコメツキ	<i>Corymbitodes concolor</i>	16	0	0	0	16
10	クロツヤヒラタコメツキ	<i>Calambus japonicus</i>	2	2	0	0	4
11	ミヤマトヒラタコメツキ	<i>Acteniceromorphus kurofunei</i>	4	0	0	0	4
12	メスアカキマダ <sup>ラ</sup> コメツキ	<i>Gamepenthès versipellis</i>	1	3	0	0	4
13	ヒメホソコメツキ	<i>Procræus helvolus</i>	0	1	0	0	1
14	ホソツヤケシコメツキ	<i>Hayekpenthès pallidus pallidus</i>	0	0	1	0	1
15	アヲハダ <sup>ニ</sup> チャイロコメツキ	<i>Ectamenogonus rugipennis</i>	0	0	1	1	2
16	ヒメクロコメツキ	<i>Ampedus carbunculus</i>	6	7	5	0	18
17	ホソクロコメツキ	<i>Ampedus tenuistriatus</i>	1	0	0	0	1
18	アハラクロコメツキ	<i>Ampedus hypogastricus hypogastricus</i>	0	1	1	1	3
19	ケ <sup>ニ</sup> カクロコメツキ	<i>Ampedus vestitus vestitus</i>	0	0	0	1	1
20	アヲアシクロコメツキ	<i>Ampedus japonicusg</i>	2	2	8	0	12
21	キヲシクロムナホ <sup>ソ</sup> コメツキ	<i>Ectinus insidiosus</i>	2	0	0	0	2
22	クロムナホ <sup>ソ</sup> コメツキ	<i>Ectinus higonius</i>	79	10	128	0	217
23	カ <sup>ニ</sup> イロコメツキ	<i>Ectinus sericeus sericeus</i>	16	2	3	0	21
24	ヒゲ <sup>ニ</sup> ナガ <sup>ニ</sup> コメツキ	<i>Neotrichophorus junior junior</i>	0	0	4	0	4
25	ミ <sup>ニ</sup> リヒメコメツキ	<i>Vuilletus viridis viridis</i>	2	0	1	1	4
26	キ <sup>ニ</sup> ホ <sup>ソ</sup> コメツキ	<i>Dolerosomus gracilis</i>	55	26	45	68	194
27	クチブ <sup>ト</sup> コメツキ	<i>Silesis musculus musculus</i>	4	3	0	0	7
28	マルクヒ <sup>ニ</sup> クシコメツキ	<i>Melanotus fortnumi</i>	1	0	0	0	1
29	ヒラタクシコメツキ	<i>Melanotus koikei</i>	0	0	1	0	1
30	クロツヤケシコメツキ	<i>Melanotus annosus</i>	2	2	7	6	17
31	クシコメツキ	<i>Melanotus legatus legatus</i>	2	1	6	16	25
32	オハケコメツキ	<i>Platynychus nothus nothus</i>	1	0	0	0	1
合 計			214	63	215	96	588

## 《 参考文献 》

高羽正治(1998)コメツキムシ科. 石川県の昆虫(石川県): 157-164.

《まつい まさと 〒920-3121 金沢市大場町東871-15》

ングルに居る高田君のメールはローマ字。向こうのパソコンは、日本語ができないらしい。久慈氏も七月からニューヨーク、できればローマ字通信がありがたい。北川氏の英文メールには苦勞しました。

### 医王山林道は来年いつばい不通

昨年の災害で、金沢から医王山に登る最もポピュラーな道が通れなくなった。ゼフポイントを数多く有する道で、市街地から近い好採集地。今年十月には復旧する見込みだったが、災害部分が広がったみたいで、工事は来年いつばいかかるらしい。

### ハルゼミプロジェクト大成功

会員内外に呼びかけて行ったハルゼミ調査は、おとり調査も普及し、多大なる成果をもたらした。金沢・小松の海岸部と標高千以上を除いたほとんどの地点から確認され、メッシュマップはほぼ完成。記録を報告いただいた皆様、ありがとうございます。

### かってスターだった

気品のある飛び方、あの彩り、なかなか採れないあこがれの種。涙ぐましい思いをしながらポロをも採集し、一頭一頭標本箱に追加していた。ところがどうだ、ツマグロヒヨウモンもメスグロヒヨウモンも、今ではどこにでも飛んでいる普通種だ。

### エゾハルゼミのオトリ調査

ハルゼミで絶大な効果を發揮したオトリ調査、エゾハルにも同様の効果があるように、♂は直ぐに鳴き出し、♀は声に惹かれて飛んでくる。

### 月曜の倉ヶ岳に六人の虫屋

医王山が通行止となり、にわかには脚光を浴びてきたのが倉ヶ岳。古くからの採集地だが、近年人氣が無かった。マインナーな場所を好む嵯峨井氏が、二・三年前からシコシコ通い、ポイント発掘に励んでいたが、今年月曜日でも虫屋が押しかけるようになった。

### 群れ飛ぶハッチョウトンボ

辰町灯台笹(とだしの)の湿地にハッチョウトンボが大発生。「壮观な眺め」とは牧原氏のコメントだが、その密度はたいへんなものらしい。不安定な浅い湿地を転々とするジブシー生活は、いつまでこの地で続くだろうか。

### 高洲山・鉢伏山界隈が騒がしい

輪島の高洲山・鉢伏山界隈は、金沢の医王山に匹敵する採集スポット。ゼフに交じってメスグロヒヨウモンが飛び交い、アサギマダラも現れるが、今年はずマダラも現れるが、飛び出した。更にはオオムラサキ再発見の話もあり、現地はなかなか騒がしい。

### 例会の記録

六月三日(木)城南管工二階にて八時から開催。

ビッグニュースはツマグロヒヨウモンの越冬で、加賀市と金沢市の発生状況、個体サイズについて発表があった。

その他の話題は、ギフは六月に限る、ヤマギフはチャリントンに乗って、ほとんど埋まったハルゼミマップ、ラオスでバツタリ、近所に住んだ虫屋のお兄さん、パイナツプルがいつばい等々。

参加は、竹谷、久慈、中西、指田、松井、吉村、井村、笹川、山岸、野中(T.E.L.参加)の十人。

### 例会の記録

七月一日(木)城南管工二階にて八時から開催。

夏の燈火採集大会についての打ち合わせ。針葉樹林帯で二〜三張り。時期は八月上旬。

その他の話題は、タマムシいらんかい、小松高校のクロマダラ、アオタマ採りはメチャ暑い、今年のゼフは少ない、ヒメボタルはもう飛んでいる、標本箱の共同購入、沖繩採集ツアーなどなど。

参加は、細沼、三上、笹川、指田、松井、中西、富沢、井村、山岸、吉村、西原、石原の十二人。  
【表紙デザイン…小幡英典】

# 会員の動き・しゃべりの動き

## 蝶談会ホームページがオープン

五月末に蝶談会HPがオープンした。HP「金沢の昆虫」の開設者、北川章夫氏の御好意によるもので、会誌紹介、写真集、掲示板等がある。どんどん掲示板に書き込んで、北川氏の好意に答えよう。  
<http://member.nifty.ne.jp/hakusan/>

## ギフとウスバシロとツマグロ

富山の高野氏、ヤマギフを狙って某地へ出かけたところ、アサギマダラやウスバシロが飛び、おまけにツマグロヒヨウモンも飛んでいたとか。そして、お目当てのギフはピカピカのピカ。

## 初ギフはブルーネットの後に

ヤマギフを求めて、あちらこちらと遠征する季節。しかし、ヤマギフの産地はピンボ

イント、初めての場所ではポイント捜しに苦労する。そこで車の終点まで一番に入り、後からやって来る常連を待つ。常連を見分けるには眼力が必要だが、ブルーネットを持つていけば文句無し。しっかり後について行く。

## 仕掛けたトラップは数百個

偶然二頭が採集されたセアカオサ、旧オサムシグループの執拗な調査にも関わらず、追加確認ができない。三十八年前ぶりの記録とあつて熱の入れ用も相当なものだが、なぜか確認できない。

## ブンブン虫の出る頃

暖かくなると、何処からともなくブンブンと聞こえてくる。姿を見ることはほとんどないが、ブンブンとうるさい

のですぐわかる。雨の日には出てこないが、蒸し暑い夜などは特にうるさい。舗装道路に限って発生するらしく、国道に近い我家は毎年同じ時期になると聞こえてくる。

## ツマグロ越冬確認プロジェクト

日吉、嵯峨井、松井の三氏、加賀市から輪島市にかけて見張っていたところ、加賀市と金沢市で越冬が確認された。加賀市では、六月下旬から二化も観察されている。

## コマツナギはあるけれど

富沢氏、ミヤマシジミをあきらめきれず、今年も調査に汗を流している。河川周辺には広く薄く、何処にでもコマツナギはあるけれど、目差すチョウは見つからない。

## ローマ字通信がありがたい

最近、Eメールばかり、手紙よりは手軽だし、何と言つても速い。言葉じゃ無く文字で伝えたい事つてたくさんあるものだ。ジャワのジャ

# 翔

NO. 139

1999年8月1日発行

百万石蝶談会

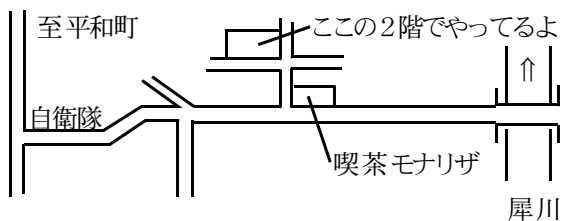
金沢市大場町東871-15 松井方

☎920-3121 ☎076-258-2727

郵便振替 00750-8-562

印刷 小西紙店印刷所

例会は偶数月・5月・7月の第1木曜日8時から  
 TEL 参加もOKです (076-244-3318)



## 目 次 (139号)

松井正人：ウスイロコノマチョウの集まる場所	1
久慈一英：能登島で見かけた蝶	2
嵯峨井淳郎：金沢における越冬ツマグロヒョウモンの目撃・採集例	3
嵯峨井淳郎：石川県産ミヤマカラスアゲハ、カラスアゲハの第3化の確認例	4
松井正人：ハルゼミとヒグラシの声を同時に聞く	4
松井正人・富沢 章：晩秋の吉次山蛾類記録	5
松井正人：訪花性誘引器で採集したコメツキムシ	7
編集部：会員の動き・しゃばの動き	10